



『 鋳物師 (いもじ) 町』

姫路城から東へ1 km、播但線の京口駅前の小さな京口公園に旧鋳物師町跡と書かれた石碑があります。もう一つの黒い御影石は町名由来記念碑です。昭和57年、区画整理の完了と共に京口町に改名されるので、由緒ある町名を保存しようと建設されました。その中に鋳物師の頭領、藤原弁随(べんずい)のことが記されています。それによると、

『王朝時代からこの辺り一帯を津田村といい、その中の神谷の北裏に位置し吹屋といった。古く佐用の砂鉄から鉄をつくり、播磨鍋・播磨針を京都で売り出し非常に名高かったのである。天正7年(1538年)12月 藤原弁随頭領の鋳場を芥田家久が買収して野里に移したので、その後は野里が鍋・梵鐘(ぼんしょう)・灯笼・塩釜・鋤鋏(すき、くわ)等、鉄鋳品の中心的存在となった、以下略』。

石碑裏面に書かれた世話人や寄贈者の名前に『小野某』・『大西某』・『田中某』など、野里で活躍した後世の鋳物師の姓を見出すことが出来ます。

ここは平安時代から『飾磨の市』として栄え『市之郷廃寺』(白鳳時代:7世紀後半に創建)があり、すぐ北の神谷町には九所御霊神社があります。この神社は商売の神様か?『神屋天神・松本天神・市之郷天神』と古くから色々な名前の人々に親しまれてきました。



鋳物師(いもじ)の系譜をみると、もちろん伝説ですが河内丹南に天命白置明神という鋳物師が孝靈天皇時代に居住し、その子孫が代々鋳物師として業を伝えたのが初めとされています。その後、文武天皇のころ(703年)には朝廷お抱えの鋳物師に、国家の重器を造る職であるからというわけで藤原姓を賜りました。

京都、方広寺で見た風鐸の銘には、年号と共に作者の名前が『鋳物師大工 名越弥右衛門尉 藤原朝臣三昌』と刻まれていました。梵鐘などの銘に藤原〇〇と刻まれていると、その鋳物師は古くからの技術者で、出身地は河内などと出てきます。皆様も梵鐘の銘に注目してください。面白い歴史が見えてくるかもしれません。

ちなみに、現在でも鋳物師町(いもじまち)の町名が各地に残っています。一例を挙げると、滋賀県東近江市、福井県敦賀市、伊丹市、山口県防府市、北九州市小倉北区、ほかにもあると思いますのでご存じの方は教えてください

注記 平安時代に書かれた新猿楽記には名産品として『播磨針』が書かれています。

藤原明衡(ふじわらのあきひら)1052年前後

参考資料

改訂 鉄の考古学 窪田蔵郎 2000年 雄山閣出版
鋳物の文化史 石野亨 1995年 小峰書店

ホームページと電子メールをご利用ください。

URL <http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>
<http://www.kanamonoya.co.jp/ryou@memenet.or.jp>

むらの鍛冶屋®



何でもお気軽にお尋ねください!!